



<東部療育センター メールマガジン 2009年9月号>  
障害児（者）の方への情報提供を行い、生活を支援します。

発行 東京都立東部療育センター  
<http://www.tobu-ryoiku.jp>



この夏は皆様 いかが過ごされましたか？大雨等天候不順な事も多く、新型インフルエンザの感染のニュースも続いており、不安に感じておられる方も多いかと思います。  
今回はその新型インフルエンザについての情報及び東部療育センターでの対策を紹介します。



### <新型インフルエンザ>

医局より

最近、マスコミなどの情報により、頻繁に耳にするようになりました。免疫を持つ人が居ないため、大流行につながり、社会に多大な影響を及ぼす可能性があります。社会の一員として、出来るだけ正確な知識と情報を持って行動したいものです。今回は、簡単にまとめてみましたので、参考にしていただければと思います。

#### 1) 新型インフルエンザ

##### ・インフルエンザについて

インフルエンザウイルスには、A、B、Cの3つの型があります。ウイルス粒子表面にあるタンパク質の違いにより、特にA型ウイルスは多くの変異株が存在します。この全てのA型インフルエンザウイルスを持っているのがカモやアヒルなどの水鳥です。そう言う意味では、地球上に存在するインフルエンザの大半が、実は鳥インフルエンザなのです。しかし、通常インフルエンザウイルスは腸管内にとどまり、症状を示すことはほとんどありません。なかには、他種の鳥にウイルスが感染し、症状を来たすことがあります。それを繰り返すうちにウイルスに変異（性質が変わる）が起こり、強毒株となったものが『高病原性鳥インフルエンザウイルス』と呼ばれます。ご存知のように、同ウイルスの感染によって鶏が大量に死亡したことが報道されました。この場合、増殖したウイルスは腸管に留まらず、全身で繁殖し多臓器不全を引き起こすので、強毒株と呼ばれるのです。

##### ・新型インフルエンザとは

前述の『高病原性鳥インフルエンザウイルス』は、鳥の間で伝播している限りは、『新型インフルエンザウイルス』ではありません。ウイルスが変異を繰り返し、種の壁を超えて伝播（鳥→ヒト、鳥→豚など家畜）するようになり、動物からヒトへと伝

播し、さらにはヒトからヒトへと伝播が容易になり、感染が広がっていく状況になって初めて「新型インフルエンザ」と判定されます。現在、季節性インフルエンザと言われている A 型ソ連型、A 型香港型も、以上の過程を経て新しく起こり、歴史的な世界的大流行を引き起こしたウィルスの子孫なのです。

## 2) 新型インフルエンザの感染

### ・どんな症状が考えられるか

初期症状は 38 度以上の高熱が突然出て、咳などの気道症状や全身倦怠など、一般的なインフルエンザとほぼ同様と思われます。つまり、通常の風邪に比べ、急激な高熱や、頭痛・関節痛などの全身性の症状が強く現れます。他には、下痢・嘔吐・腹痛（消化器症状）、出血傾向、神経症状などが予測されます。ウィルスが全身に及び多臓器不全を起すと、死に至ることが予想されます。経過はウィルスの毒性と、感染者の免疫機能が関係するため、その違いにより、症状の重症度は異なります。

### ・治療法は

確立された治療法はありませんが、今回のブタ由来インフルエンザ (A/H1N1) のように、抗ウィルス薬の効果が期待できるかもしれません。現在、季節性インフルエンザに有効とされている薬剤には、内服薬と吸入薬があります。その場合は、症状発現から 48 時間以内の、気道での増殖期に有効とされています。そのため、専門機関などの医療機関での早期診断と治療が求められます。

### ・季節性インフルエンザとの違い

季節性インフルエンザは、感染性が高く集団感染を来し、基礎疾患のある方、乳幼児や高齢者が特に重症化しやすく、毎年死亡例もあります。しかし、獲得免疫による交差反応（類似のウィルスの増殖を妨げる）や、ワクチン接種により、発症予防や軽症化を期待できます。また、抗ウィルス薬の有効性も証明されています。新型インフルエンザは、全ての方が免疫を持たず感染拡大を招く恐れが強いのです。更に、そのウィルスの性質により病原性が異なるため、潜伏期間、症状、薬の有効性が明確でないのです。もし、強毒性であれば、感染者の致死率は高く、むしろ 10~30 代の若年層で高いと予想されています。

## 3) 予防対策

### ・最新情報を得る

WHO、厚生労働省、国立感染症研究所など公式機関などの情報に注意しましょう。初期にはウィルスの毒性など特徴は不明ですが、症例が集まれば、WHO など公式の機関から潜伏期間、重症の程度と時期、好発年齢など詳しい情報が得られると思います。持病がある場合は特に基本的な知識であっても不安な点は、かかりつけ医などの医療機関で相談してみましよう。また、パンデミックなど社会機能が麻痺する事態を予想し、食料の備蓄や日常生活の見直しも必要かもしれません。

### ・ウィルスを持ち込まないために

感染経路として、通常のインフルエンザのように飛沫感染であるか、空気感染であるかわかりません。長時間にわたり感染者から排出されたウィルスは空気中を漂っている可能性があります。感染は、ウィルスがのど等の粘膜から侵入し増殖することで確立します。マスクの着用の効果は一定に留まり、過信は禁物です。外出先から帰ったらうがいを行い、ウィルスの付着している可能性のある手指も良く洗いましよう。流行地域への外出は避けるべきですが、人が多く集まる場所や空気が循環しにくい密

閉された場所での長時間滞在は控えるのが懸命です。なお、ワクチン開発には時間がかかるため、行動を自粛することが、感染拡大を抑制し時間を稼ぐことで予防効果に繋がると期待されます。家族など身近な方が感染したときなど、感染者との濃厚な接触があった場合は、抗ウイルス薬の予防内服が有効かもしれません。いずれにしろ、免疫力を高めるために、日頃から睡眠を良くとり、適切な栄養を摂取し、規則正しい生活を送るよう心掛けましょう。

#### 4) もし感染が疑われたら

- どこに相談するのか

感染症状は前述のとおりですが、感染が疑われたら、初期には、専門機関への受診が必要です。流行蔓延期など、今回のブタ由来インフルエンザのように、感染状況により対応が異なるため、その時点での国の方針に従う必要があります。受診前に、相談窓口（保健所）に電話連絡し、医療機関や受診方法など相談する必要があります。感染の拡大を防ぐため、受診の際にはマスクを着用し、公共の交通機関は使用せず、医療機関の指定された時間と場所を守りましょう。

- 診断の確定には

症状に加え、診断に最も重要なのは付近の発生情報と、感染者と思われる方との接触の情報です。具体的には、発症 10 日前までに肺炎の患者の介護や、1～2メートル以内での対面接触の有無が有用です。最終診断には実験室診断が必要となるため、時間を要します。市販の迅速診断キットによって新型インフルエンザは、A 型インフルエンザとしての診断は可能です。しかし、この診断キットでは通常のインフルエンザとの鑑別は困難です。

- どこで治療するか

診断が確定或いは濃厚であれば、抗ウイルス薬の投与を受け、軽症であれば自宅療養が義務付けられますが、初期には専門機関に隔離し症状を観察する必要があります。流行最盛期の対応は国の指針に従う必要があります。

#### 5) 東京都立東部療育センターでの取り組み

重症心身障害児（者）の生活の場であるセンターで、ウイルスを持ち込まないために、一般の皆様方にご協力を頂いている事項がありますので、最後に紹介します。

- 外来受診者に対して

有熱者の診察には、隔離室を利用し、他の利用者様との接触を避けるよう工夫をしています。来院を希望される利用者様には、前もって電話連絡をお願いし、状況を伺った上で、診察時間を決めています。診察場所の確保だけでなく、動線が交わらないよう、職員に周知し、病棟内やセンターの利用者様の行動を制御しています。可能な限り受診者には、自家用車での来院とマスクの着用をお願いしています。

なお、定期受診の際、体調不良の時には、その旨、事前に電話連絡を頂き、個別に対応を決めたいと思います。ご協力をお願いいたします。上記以外、リハビリなどの利用者に対しては、訓練前にセンター職員による問診を行っています。感染が疑わしい場合は、診察を行うこともあります。

- 短期入所者の状況把握

入所前の事前調査で感染症一般、特に感染性の高い伝染病罹患状況の把握をしています。入所当日は病棟に行く前に、地域療育支援室にて、入所前の最終チェックも行

っています。

・面会者の状況把握

来所された皆様に、健康状態や感染症の方との接触状況を把握するため、質問票の記入や、別室での面会をお願いしております。また、面会をご遠慮いただくこともあります。



今回のメールマガジンいかがでしたか？この情報を参考に、正しい情報を得たり、かかりつけ医と相談することなどのより予防に努めていただければと思います。

- 
- ◆ このメールは [msw\\_trc@mtrc.jp](mailto:msw_trc@mtrc.jp) のアドレスより配信しております。
  - ◆ 送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。
- 

発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>  
個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>  
問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/inquiry.html>  
〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

- 配信がご不要の方は、下記URLにアクセスして下さい  
<http://www.tobu-ryoiku.jp/info/mailmagazine.html>

---

Copyright (C) 東部療育センター All Rights Reserved.